

富士見市
みずほ台コミュニティセンター
長寿命化改修工事方針

令和6年5月

富士見市

目 次

序章 はじめに.....	1
1. 計画上の位置づけ及び本方針の目的.....	1
第1章 施設の概況.....	2
1. 沿革.....	2
2. 施設の概要.....	2
(1) 施設の概要.....	2
(2) 改修履歴.....	2
(3) 劣化状況.....	2
(4) 躯体状況.....	3
2. 施設の利用状況.....	4
(1) みずほ台コミュニティセンターの利用状況.....	4
(2) みずほ台出張所の利用状況.....	5
3. 施設周辺地域の将来推計人口.....	6
4. 施設の周辺エリアの状況.....	7
(1) 公共施設等の配置状況.....	7
(2) 公共交通.....	7
(3) その他.....	7
第2章 施設の課題.....	8
1. 施設の課題.....	8
2. 公共施設に求められている機能.....	9
第3章 改修方針.....	10
1. 基本的な考え方.....	10
2. 改修方針.....	11
3. 改修プラン（改修項目）.....	12
(1) 長寿命化改修工事における基本的な改修項目.....	12
(2) 施設の改修項目.....	13
4. 改修費用.....	15
(1) 計画上の位置づけ.....	15
(2) 現状のプランでの対策費用の見込み.....	15
(3) その他.....	15
《資料編》 市民意向の把握.....	16
1. 富士見市公共施設利用者アンケート報告書（抜粋）.....	16
(1) 目的、調査期間、調査対象、調査方法.....	16
(2) 設問・回答（抜粋）.....	16
2. 富士見市の公共施設の再編に関するアンケート報告書（抜粋）.....	18
(1) 目的、調査期間、調査対象、調査方法.....	18
(2) 第1回の設問・回答（抜粋）.....	19
3. 公共施設に求める機能.....	21
4. みずほ台コミュニティセンターの利用状況（令和4年度） エラー! ブックマークが定義されていません。	
5. 出張所窓口事務種類別取扱件数等集計表（令和4年度）エラー! ブックマークが定義されていません。	

序章 はじめに

1. 計画上の位置づけ及び本方針の目的

公共建築物の約7割が築30年を経過しており、今後人口急増に整備した施設等の維持管理・更新等に係る経費が増加する見込みであり、限られた財源での対応と費用の平準化が求められています。

この対策の一つとして、建物の長寿命化を実施し、既存建物の有効活用することで対策費用の平準化を図ることとしています。

みずほ台コミュニティセンターについては、令和4年度3月に策定した公共施設個別施設計画第1期実行計画において、令和8年度に長寿命化改修工事を実施する予定としています。

また、令和4年度から令和5年度までの期間は、施設状況や利用実態を確認し、長寿命化改修工事の実施の判断、実施する場合の適切な改修内容を検討する期間となっています。

とりわけ、みずほ台コミュニティセンターについては、様々な年代、多様な属性の方が利用している施設であるため、将来の地域の在り方などを見据えるとともに、現在の利用実態を十分に把握し、検討を進める必要があります。

そのため、本方針では、施設の現状、利用状況、課題等を整理し、令和8年度の長寿命化改修工事の方向性について定めることを目的とし策定するものです。

《参考》富士見市公共施設個別施設計画第1期実行計画 P. 12 抜粋

② 長寿命化改修工事の時期を迎える施設のスケジュール

施設名	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
みずほ台コミュニティセンター		事前 検討		設 計		長寿命 化改修				

第1章 施設の概況

1. 沿革

みずほ台コミュニティセンターは、みずほ台地域の発展に寄与することを目指し、市民相互の交流の場、市民参加によるまちづくりの拠点施設として、みずほ台土地区画整理事業施行にあわせ、昭和58年度に建設されました。

また、平成3年度には施設の一部にみずほ台出張所を整備し、各種証明書の交付や転入、転居、転出などの異動手続き等の行政サービスを提供する市民に広く利用される施設となっています。

2. 施設の概要

(1) 施設の概要

建築年度	昭和58年3月に開館（平成13年度に改修工事）
位 置	富士見市西みずほ台1丁目19番地2
構造種別	鉄筋コンクリート（一部鉄骨造）地上2階建て
敷地面積	973.84平方メートル
延床面積	1,009.17平方メートル

(2) 改修履歴

年 度	工 事 名
昭和58	新築工事
平成 3	出張所開設事業改造工事
平成13	大規模修繕工事
平成28	電気設備改修工事
令和3年	空調設備等改修工事

(3) 劣化状況

当該施設については、定期的な改修工事を実施していることから、目に見える部分（屋根・外壁・内装・設備）においては、著しい劣化はありませんが、部分的に雨漏りなどの症状がみられる状況です。また、建築から39年が経過しており、建物躯体の経年劣化対策や配管などのライフラインの全面更新が必要な時期を迎えています。

《参考：令和4年度の劣化状況調査結果》

項目	1. 経過劣化度	2. 構造部劣化度	3. 部位別劣化度				
			(1) 屋根・屋上	(2) 外壁	(3) 内部	(4) 機械設備	(5) 電気設備
評価	-	B	B	B	B	B	B
評価点	22.00	75.00	75.00	75.00	75.00	75.00	75.00
劣化度評価点	① 22.00	② 150.00	③ 150.00	④ 150.00	⑤ 75.00	⑥ 75.00	⑦ 75.00

項目	総合劣化度評価点	参考；健全度
劣化度評価点	①+②+③+④+⑤+⑥+⑦ 697.00	75.00

※総合劣化度評価点1000点満点で建物劣化度を評価した指数。総合劣化度評価点から施設全体としての一定の劣化が認められます。また、建築後年数が経過しているため、建物の基礎的な評価点である『1. 経過劣化度の劣化度評価点』が低くなっています。

(4) 躯体状況

令和4年度委託の建物躯体調査では、施設に必要なコンクリート圧縮強度を有しており、コンクリートの中性化についても鉄筋まで到達していないことが確認されていますが、中性化の進行を抑制するための対策を実施することで、今後も長期的に建物を使用することが出来る状況となっています。

多目的室棟（平均値） ※貸部屋がある棟

コンクリート圧縮強度	中性化深さ	鉄筋かぶり厚さ	鉄筋腐食度
27.7 N/mm ²	28.9 mm	40.1 mm	錆なし

事務室棟（平均値） ※出張所がある棟

コンクリート圧縮強度	中性化深さ	鉄筋かぶり厚さ	鉄筋腐食度
26.2 N/mm ²	41.1 mm	48.4 mm	部分的に錆あり

《参考：長寿命化改修工事を実施する基準》

必要なコンクリート圧縮強度：13.5 N/mm²を超える

中性化深さ：鉄筋かぶり厚さ未満

2. 施設の利用状況

みずほ台コミュニティセンターは貸館業務のほか、出張所が併設された複合施設となっています。

西みずほ台及び関沢地域における地域住民の交流施設としての中心的な役割に加え、鉄道駅近接の出張所として、広く市民に利用されています。

(1) みずほ台コミュニティセンターの利用状況

東武東上線みずほ台駅に近接し、アクセスなど利便性が良いことから、利用率も高く、多くの市民に利用されています。

また、構成諸室の利用率は、和室や談話室など目的が限定された部屋の利用率は低い傾向にありますが、集会室やプレイルームなど目的以外の他の目的にも利用可能な部屋の利用率は高い傾向にあります。

なお、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により利用率が低くなっておりませんが、令和3年度には例年程度に利用率が回復しております。

年度・利用状況 構成諸室	令和4年度（開館 347 日）			令和3年度（開館 336 日）			令和2年度（開館 282 日）		
	利用件数 （件）	利用者数 （人）	利用率 （％）	利用件数 （件）	利用者数 （人）	利用率 （％）	利用件数 （件）	利用者数 （人）	利用率 （％）
第1集会室	720	6,385	69.2	510	6,239	70.8	446	4,694	52.7
第2集会室	609	4,164	58.5	473	4,161	66.6	401	3,862	47.4
第3集会室	574	3,475	55.1	451	2,657	63.0	401	1,925	47.4
和 室	247	1,101	23.7	244	1,222	37.5	192	1,108	22.7
談話室1・2	401	2,216	38.5	330	1,650	49.5	354	1,830	41.8
プレイルーム	891	3,681	81.1	622	2,202	75.7	516	2,111	67.6
美 術 室	544	4,125	52.3	459	3,034	63.1	390	2,477	46.1
講 話 室 3	112	591	—	86	508	—	49	302	—
フリースペース	—	4,809	—	—	1,024	—	—	231	—
合 計	4,098	30,547	54.1	3,175	22,697	60.9	2,749	18,540	46.5
使用料【歳入】	1,215,800 円			837,600 円			881,300 円		
≪新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休館日数≫ 令和2年度：65日間と夜間のみ休館37日間 令和3年度：夜間のみ休館127日間									

(2) みずほ台出張所の利用状況

施設周辺の人口も多く、施設需要が高いこと、また、西みずほ台地域は市役所まで遠距離であり徒歩圏ではないことなどから、市内出張所の中で最も利用件数の多い出張所となっています。

(単位：件、円)

事務種別		西出張所	水谷出張所	南畑出張所	水谷東出張所	みずほ台出張所	ふじみ野出張所	合 計
住民異動関係	転 入		59	6	24	575	485	1,149
	転 出		78	6	47	532	488	1,151
	転 居		45	3	8	129	70	255
	世帯変更等		16	3	5	47	37	108
戸籍届出関係	出生・死亡等		29	2	13	54	44	142
印鑑登録関係	登 録		152	20	74	407	402	1,055
	照 会		12	1	10	20	23	66
市民課各種証明関係	件数(有料)		5,250	1,710	2,527	10,906	9,238	29,631
	件数(無料)		160	33	92	228	243	756
	手数料		1,228,000	437,600	621,150	2,493,600	2,102,300	6,882,650
小計(件数)			5,801	1,784	2,800	12,898	11,030	34,313
国民健康保険関係			192	21	165	646	487	1,511
国民年金関係			27	3	21	224	234	509
福祉医療関係(障がい福祉課・子育て支援課関係)			1,459	151	1,696	2,027	1,448	6,781
介護保険関係			79	5	105	96	92	377
後期高齢者医療関係			54	9	60	144	81	348
市内循環バス関係(特別乗車証)			11	2	10	22	10	55
交通災害共済加入関係	人 数		201	11	158	221	140	731
	金 額		100,500	5,500	79,000	110,500	70,000	365,500
市税等収納関係	件 数		4,926	896	5,541	7,568	2,833	21,764
	金 額		84,550,227	17,921,428	59,956,485	108,914,755	51,771,283	323,114,178
税 務 証 明 関 係	件数(有料)		545	102	418	1,875	1,308	4,248
	件数(無料)		279	164	177	467	342	1,429
	手数料		109,000	20,400	83,600	375,000	261,600	849,600
合計(件数)			13,574	3,148	11,151	26,188	18,005	72,066

【出典】出張所窓口事務種類別取扱件数等集計表(令和4年度)

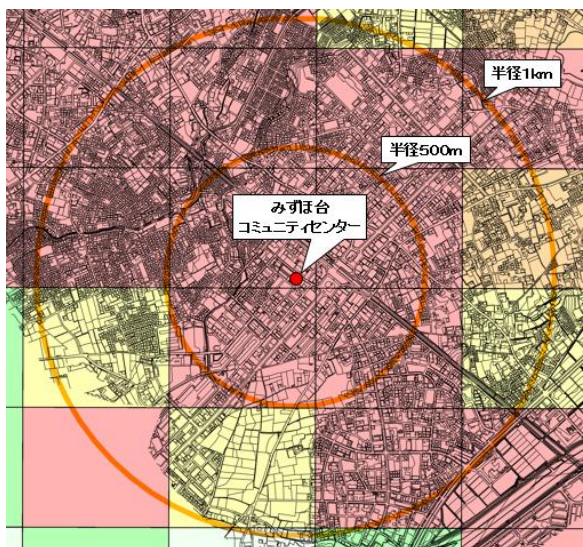
3. 施設周辺地域の将来推計人口

- (1) みずほ台地域は、鉄道駅に近接した好立地であるため、将来人口は、今後も横ばいに推移し、人口減少のペースが緩やかな予測となっています。
- (2) 施設の半径500メートル圏内に関しては、下表のとおり、概ね25年後（2025年と2050年比較）も、7.81%減にとどまっており、一定の人口を維持する見込みです。
- (3) 本地域の将来人口の推計や前述した施設の利用状況からも、本施設については、今後も需要が見込める施設と推察できます。

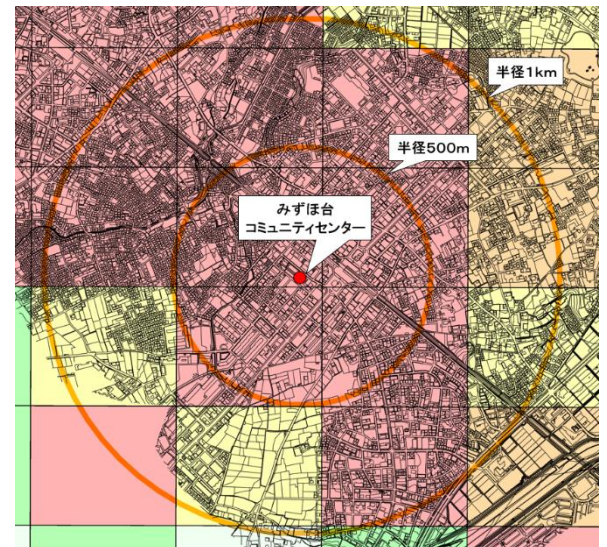
【施設周辺の将来推計人口】

	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年
半径 500m 圏内	29,784 人	29,677 人	29,307 人	28,414 人	27,963 人	27,460 人
半径 1 km 圏内	48,953 人	48,691 人	47,225 人	46,349 人	45,423 人	44,432 人

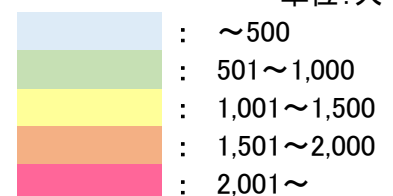
【将来推計人口メッシュ図（500m）】
2025年（令和7年）



2050年（令和32年）



単位：人



【参考】

国土交通省 HP 国土数値情報より
500m メッシュ別将来推計人口
(H30 国政局推計)

(1) 公共施設等の配置状況

本施設の周辺には、学校教育施設（小・中学校）、福祉施設（保育所・放課後児童クラブ）、その他施設（自転車駐輪場）、公園などが立地及び整備されていますが、周辺の集会所については少ない状況です。

加えて、市役所や他の出張所から距離があることから、本施設内にみずほ台出張所を有しており、近隣地域への行政サービスを提供する中心的な公共施設となっています。



(3) その他

7

第2章 施設の課題

1 施設の課題

施設区分	課 題
○施設全体	① バリアフリー化への対応。 ⇒ 関係法令（移動円滑化法、福祉のまちづくり条例）に基づく、改修計画の検討が必要。
	② 災害対策の強化。 ⇒ 防災用品備蓄スペースの整理が必要。
	③ 建物及び設備の老朽化対策。 ⇒ 建物躯体、雨漏り、トイレ、畳、各種設備等の改修又は修繕。
○みずほ台コミュニティセンター	① 交流スペースの確保。 ⇒ 地域の様々な方々が利用し、交流するという、施設本来の目的に沿った場所が確保されていない。
	② 読書室の活用。 ⇒ 読書室としての利用や図書貸出は少なく、現在、自習スペースとして利用されている状況であるため、利用実態に合わせた改修が必要。
	③ 利用目的の多様化。 ⇒ 部屋本来の目的以外の利用が増加しており、多目的に利用可能なスペースの整備が必要。
	④ 子育て支援機能の拡充。 ⇒ 幼児プレイルームが暗く利用しづらい雰囲気が出ているため、出入り口、内装等を一新し、利用したくなる環境の整備が必要。
○みずほ台出張所	① 待合スペースをつくり、利用しやすい動線を確保。 ⇒ 待合スペースと通路が同じ空間にあり、利用者の動線が確保されていないため、出張所の配置移動が必要。
	② 執務環境の改善。 ⇒ マイナンバーなどの機器が追加され、執務スペースが狭隘となっており、業務スペースの改善が必要。

2 公共施設に求められている機能

富士見市公共施設利用者アンケート及び富士見市の公共施設の再編に関するアンケート結果から、市民が公共施設に求めている機能を次の通り整理しました。

※詳細については、P 1 6 《資料編》市民意向の把握を参照

公共施設に 求める機能	具体的なイメージ
多世代交流機能	いつでも自由に使えるオープンな場所があり、多世代・地域の交流の場となり、各々が職場・学校や家庭以外の居場所として活用できる。
施設規模の適正化 機能の向上	用途に合わせた必要な広さがある、必要な備品があるなど利用目的に合った空間や機能を備えている。
	子育て世代の支援のための施設機能の向上。
	高齢者の生きがいつくりの場の提供。
防災機能	地震等の災害が発生時でも安全安心に利用できる。
	支援や復興活動の拠点となる機能や備蓄倉庫がある。

第3章 改修方針

1. 基本的な考え方

本施設は、施設の貸館や出張所機能を要し、市民の生活に密接した施設として多くの市民の方に利用されており、加えて、地域における様々な地域課題を解決するための市民自治の拠点としても機能しています。

また、今後も少子高齢化やコミュニティの希薄化が見込まれ、これまで以上に地域住民による自主的な地域づくりが求められることから、みずほ台地域におけるコミュニティ交流機能を持つ活動拠点として、重要な役割を担っていく必要があります。

加えて、今後の周辺地域の将来人口は大幅な減少はなく、将来的にも本施設の需要は見込めることから、市民の方が末永く施設を利用できるよう、建物躯体の長寿命化を図るとともに、市民ニーズに対応した改修工事を実施し、より利用しやすい施設としていく必要があります。

なお、改修工事にあたっては、本施設が鉄道駅近接に立地しており、地域の中核となる行政施設であることから、今後の地域の将来像との整合性にも考慮した改修内容とします。

令和3年4月改訂の富士見市都市計画マスタープランにおいて、西みずほ台地域の将来像を『新たな活力を備え、多様な世代が交流し、快適で安全安心に暮らせるまち』とし、みずほ台駅を中心とした多様な世代が交流し、安心して暮らせるまちを形成することとしていることから、改修方針の策定にあたっては、多世代交流の場としての地域活性化や誰もが安心して利用できるよう安全性や快適性の確保を踏まえた改修内容の検討を行うこととします。

2. 改修方針

前述した、「第1章 施設の概況」及び「第2章 施設の課題」を踏まえ、富士見市都市計画マスタープランとの整合性を考慮し、コンセプト及び改修方針を次の通り整理しました。

《みずほ台コミュニティセンターの長寿命化改修工事におけるコンセプト》 『市民の暮らしに寄り添い・利用しやすい施設』

《改修方針》

○コンセプトに基づき、目指すべき方向性を次の通り整理しました。

方 針	機 能	具体的なイメージ
様々な地域・世代が気軽に集まれ交流ができる場所	市民交流機能	地域や世代を超えた様々な人々が交流できる場所
		子育て世代を支援する憩いの場所
		散歩や用事のついでに気軽に立ち寄れる憩いの空間
生涯学習・サークル活動ができる場所	市民活動機能	芸術、文化の学習・創作活動を通じて学び楽しむことができる
		自主活動及び各種団体等の人々が集える
		多様な用途（会議、学習、憩いなど）で利用可能な場所
コミュニティや地域づくり活動の拠点	共助・地域づくり機能	みずほ台地域づくり会議活動の場の提供（町会、商店街等）
		地域づくりを促進する地域に関わる情報の提供の場
災害時における地域住民の避難拠点	防災機能	避難者（帰宅困難者等）に対する支援
		避難者用の非常食等の備蓄及び災害活動用資機材の保管
利用しやすい出張所の整備	出張所機能	利用実態に合わせて、必要なスペースや導線を確認し、利用しやすい施設の整備

3. 改修プラン（改修項目）

（1）長寿命化改修工事における基本的な改修項目

個別施設計画に基づき、長寿命化改修で基本的実施する改修は次の通りです。
この改修項目に加え、3－（2）施設の改修項目を、『建物の性能を高めるための工事』として、併せて実施します。

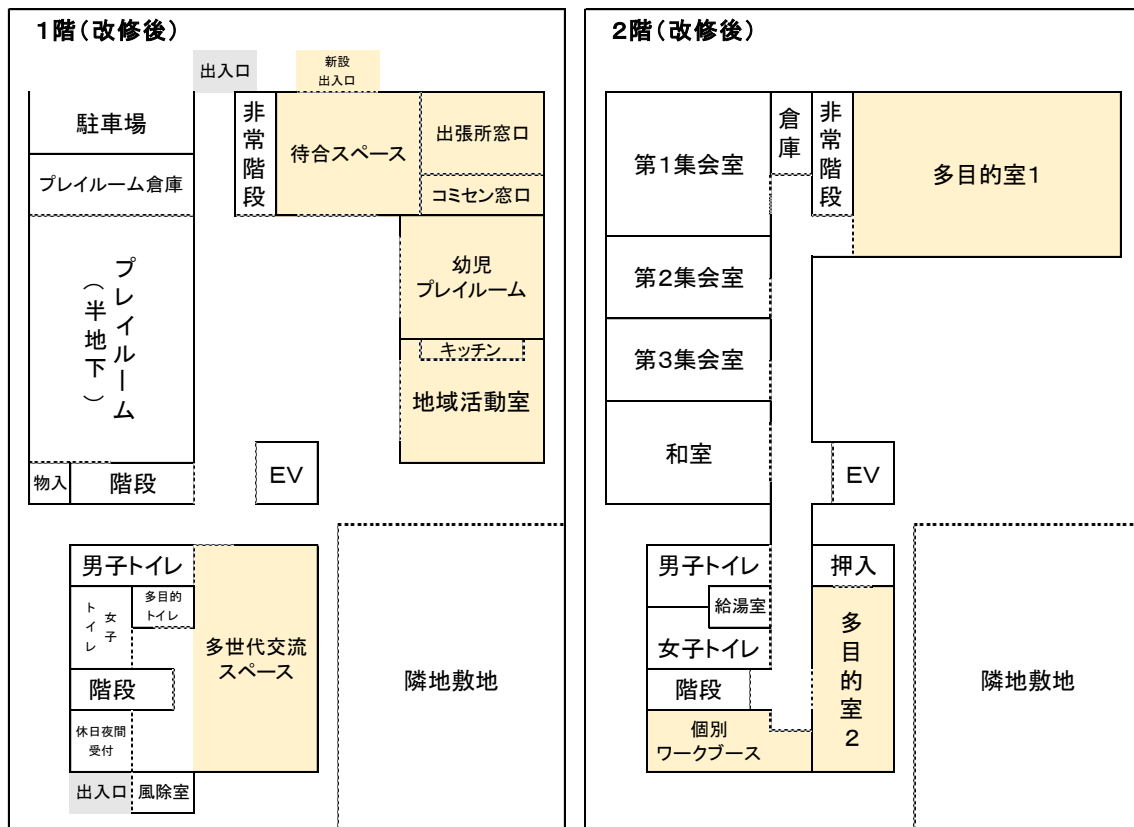
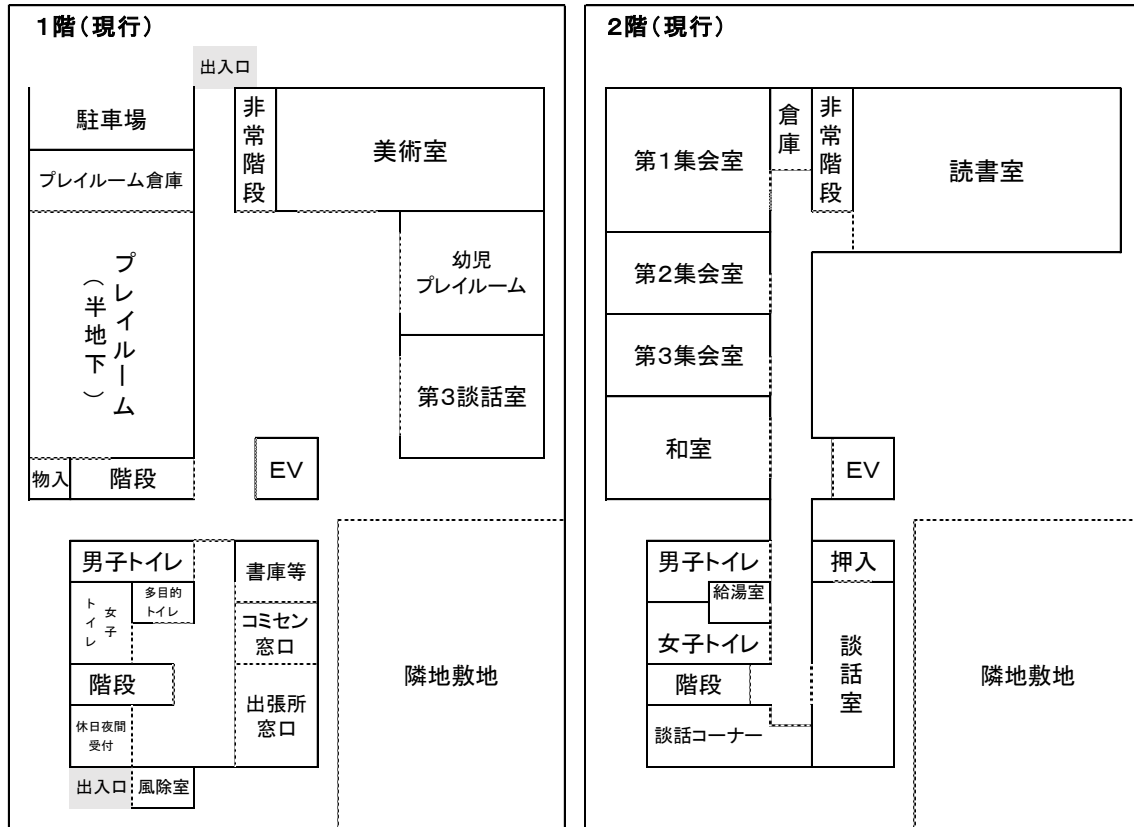
種 別	基本的な改修項目
建物の耐久性を高めるための工事	コンクリートの中性化対策
	鉄筋の腐食対策
	劣化に強い塗装剤防水材等への更新（屋上防水・外壁）
	給排水、電気、ガス管等の更新
	配管等を共用部での維持管理を可能とする改修
	対応年数を超えた各種設備・建具・内装等の更新
	非構造部材の耐震対策
建物の性能を高めるための工事	省エネルギー対策 （高効率照明の導入、複層ガラス等断熱改修）
	柔軟なプランへの改修（多目的室の整備、転用等）
	ユニバーサルデザイン等の採用（トイレ、駐車場等）

(2) 施設の改修項目

みずほ台コミュニティセンターにおいて、それぞれの方針に基づき、実施する改修内容を次のとおり整理しました。

方 針	改修項目	改修項目の選定理由
様々な地域・世代が気軽に集まれ交流ができる場所	コミュニティセンター入口付近を交流スペースへ転用	世代間交流の実現のため、様々な世代が利用しやすい施設への転換が必要であるため。
	利用したことがない方でも入りやすい出入口の整備	
	フリースペース内に休憩スペースを設け、図書、自販機等を設置	
	幼児プレイルームの出入り口、内装等を一新し、利用したくなる環境の整備。	
生涯学習・サークル活動ができる場所	読書室及び談話室を多目的室へ転用	各構成諸室が体操やヨガなどの軽運動での利用が増えていることを踏まえ、現在の利用実態に対応するとともに、将来の利用実態の変化にも対応できるようにするため
	個別ワークブースの新設	転用する読書室の学習機能を補完するため
	コミュニティセンターの利用者の導線を確保	出張所利用者とコミュニティセンターの導線の煩雑化を解消するため
コミュニティや地域づくり活動の拠点	地域活動室の整備	地域の市民団体の自主的な活動により、地域づくりが進められている実態を踏まえ、地域活動が円滑に行えるようスペースを確保するとともに、地域づくりの発展に寄与するため
	出張所内にコミュニティセンター事業に関する情報発信コーナーを整備	
災害時における地域住民の避難拠点	防災備蓄スペースの確保	駅近の立地であることから、帰宅困難者の避難スペースとしての役割を担っているため
	地域活動室内にキッチンを整備	地域住民の避難拠点としての機能を強化するため
利用しやすい出張所の整備	出張所スペース及び導線の確保（美術室を出張所へ転用）	駅近で利便性が高く、市内で最も利用されている出張所であることから、利用実態にあわせ、出張所として必要な機能を確保するため
	バックオフィスの確保	
その他	防犯カメラの導入	コミュニティセンター側入り口の安全確保のため

《イメージ図面》



4. 改修費用

(1) 計画上の位置づけ

個別施設計画において対策費用の見通しを2億6,100万円と示しておりますが、この対策費用の見通しについてはライフサイクルコスト¹（平成28年10月単価）を元に算出しており、昨今の物価上昇やアスベスト対策費用はこの対策費用に含まれておりません。

(2) 現状のプランでの対策費用の見込み

対策費用については、実績を参考に算出した平米単価に施設面積に乘じ、約4億2,000万円（設計額ベース）程度と想定しています。

今後、市民説明会での意見を踏まえ、詳細設計を行う中で、改修内容及び改修費用の精査を行います。

なお、財源の確保にあたっては、公共施設等適正管理推進事業債（長寿命化事業、充当率：90%、交付税措置：30%）を活用する予定です。

(3) その他

施設の維持管理費用の縮減や平準化が長寿命化改修工事の大きな目的であることから、改修工事实施までに自主財源確保の取組みが可能か検討することとします。

¹ 施設の計画・設計から建築、維持管理、解体撤去、廃棄にいたる費用。なお、個別施設計画における対策費用については、『平成31年度版建築物のライフサイクルコスト 第2版 国土交通省 大臣官房官庁営繕部 監修（一般財団法人建築保全センター）』に基づき、ライフサイクルコストを算出し、この総額を改修ごとに振り分けて算出しています。

《資料編》 市民意向の把握

1. 富士見市公共施設利用者アンケート報告書（抜粋）

(1) 目的、調査期間、調査対象、調査方法

ア 目的：市民の皆様が日頃どのように公共施設を利用されているのかや、公共施設の老朽化等にどのようなお考えをお持ちなのかをお伺いし、富士見市の今後の公共施設の在り方を検討する基礎資料として活用するために富士見市公共施設利用者アンケートを実施。

イ 調査期間：令和元年 9 月 13 日から同年 10 月 15 日まで

ウ 調査対象：公共施設の利用者

エ 調査方法：市内にある 16 の公共施設（建物）の窓口にて配布、郵送又は窓口での回収

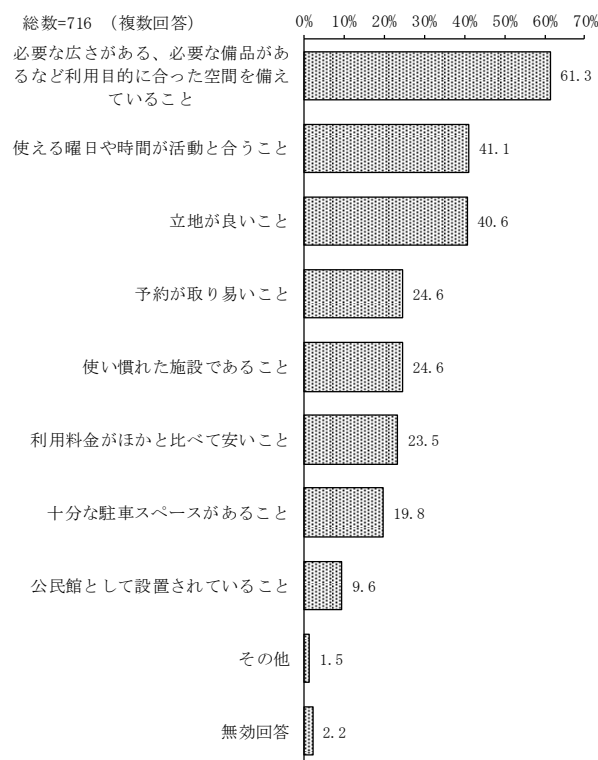
オ 回収結果：

配布数(a)	2,300 票
回収数(b)	716 票
回収率(b)/(a)	31.1 %

(2) 設問・回答（抜粋）

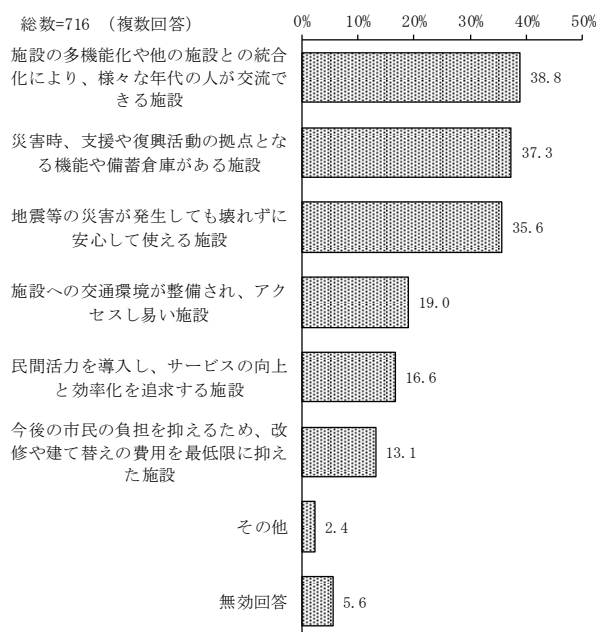
問 7 施設を選ぶときに、重要視すること（複数回答）

施設を選ぶときに重要視することは、「必要な広さがある、必要な備品があるなど利用目的に合った空間を備えていること」の割合が61.3%で最も高く、「使える曜日や時間が活動と合うこと」が41.1%、「立地が良いこと」が40.6%、「予約が取り易いこと」が24.6%と続きます。



問 10 改修や建て替えの際の要望（複数回答）

一番利用する公共施設について、改修や建て替えの際の要望は、「施設の多機能化や他の施設との統合化により、様々な年代の人が交流できる施設」の割合が 38.8%で最も高く、「災害時、支援や復興活動の拠点となる機能や備蓄倉庫がある施設」が 37.3%、「地震等の災害が発生しても壊れずに安心して使える施設」が 35.6%、「施設への交通環境が整備され、アクセスしやすい施設」が 19.0%と続きます。



【自由回答より関係事項のみ抜粋】

- ✓ 利便性が第 1 と考えます。児童から高齢者まで、交流の輪が広がる複合型のコミュニティセンターがあれば、公民館などの統廃合は可能ではないでしょうか。
- ✓ 小中を統合しての施設や、幼保も含めた教育、育成施設も考えたらどうか。
- ✓ 遠くなると、通うのが大変なため利用回数も減少し体力維持ができなく楽しみもなくなり心配である。
- ✓ 高齢者のアクセスも重視した施策を考えていただきたいと思います。高齢者にとっては近くて、安全な施設が望まれます。近隣の市町村との統一した移動サービスの実施を強く望みます。
- ✓ 市の魅力を出すには、若者が興味を持つところを重要視すべき。ジムの充実やカルチャースクールは重要。

2. 富士見市の公共施設の再編に関するアンケート報告書（抜粋）

(1) 目的、調査期間、調査対象、調査方法

ア 目的：市民の皆様から将来の公共施設の在り方についてご意見を伺うために
富士見市の公共施設の再編に関するアンケートを実施。

イ 調査期間：第1回 令和2年8月8日から同年8月21日まで

第2回 令和2年9月3日から同年9月16日まで

ウ 調査対象：富士見市公共施設マネジメント市民ワークショップ申込者

エ 調査方法：対象者に郵送で配布し、郵送又は窓口での回収

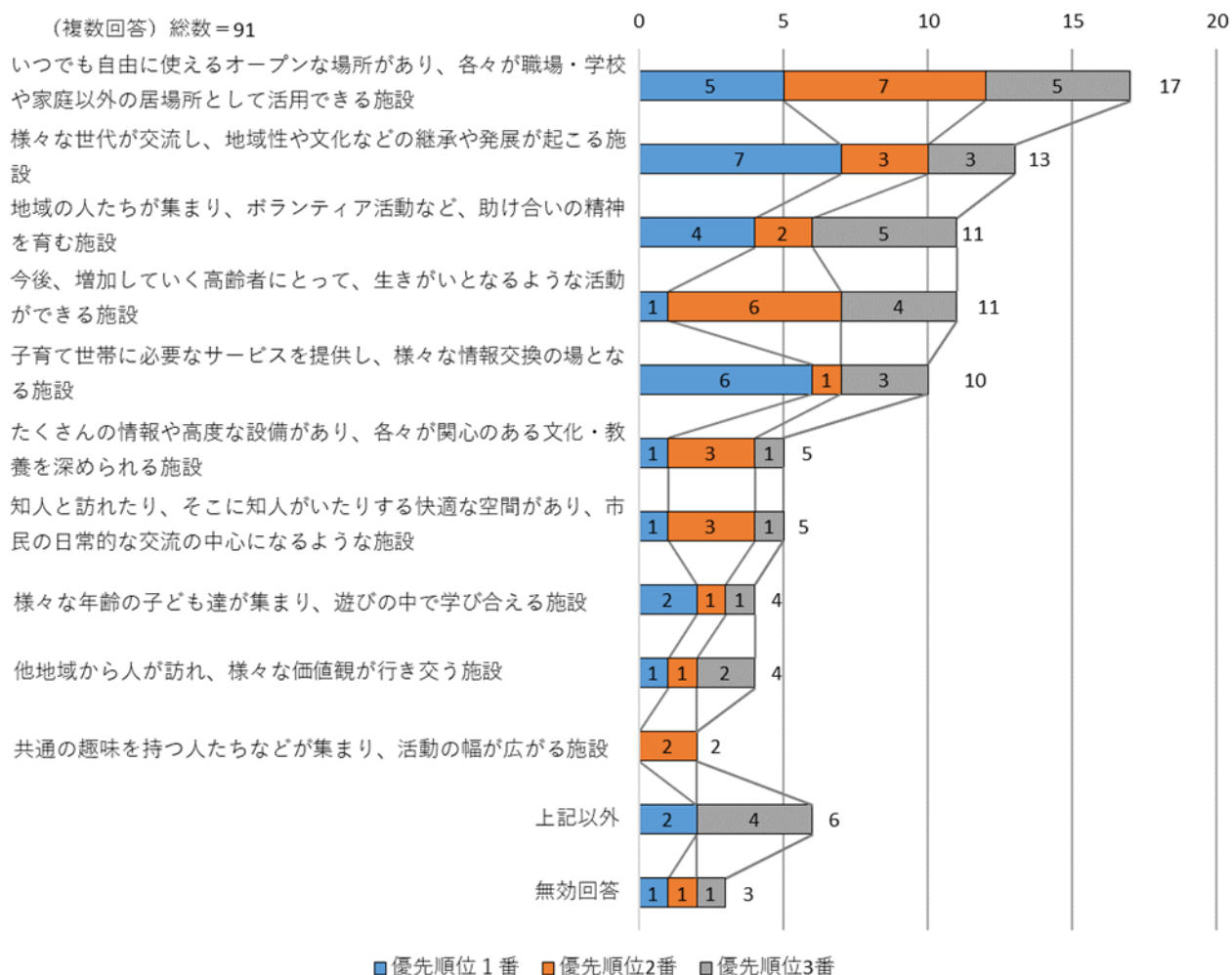
オ 回収結果：

	第1回	第2回
配布数(a)	41 票	41 票
回収数(b)	31 票	35 票
回収率(b)/(a)	約 76 %	約 85 %

(2) 第1回の設問・回答（抜粋）

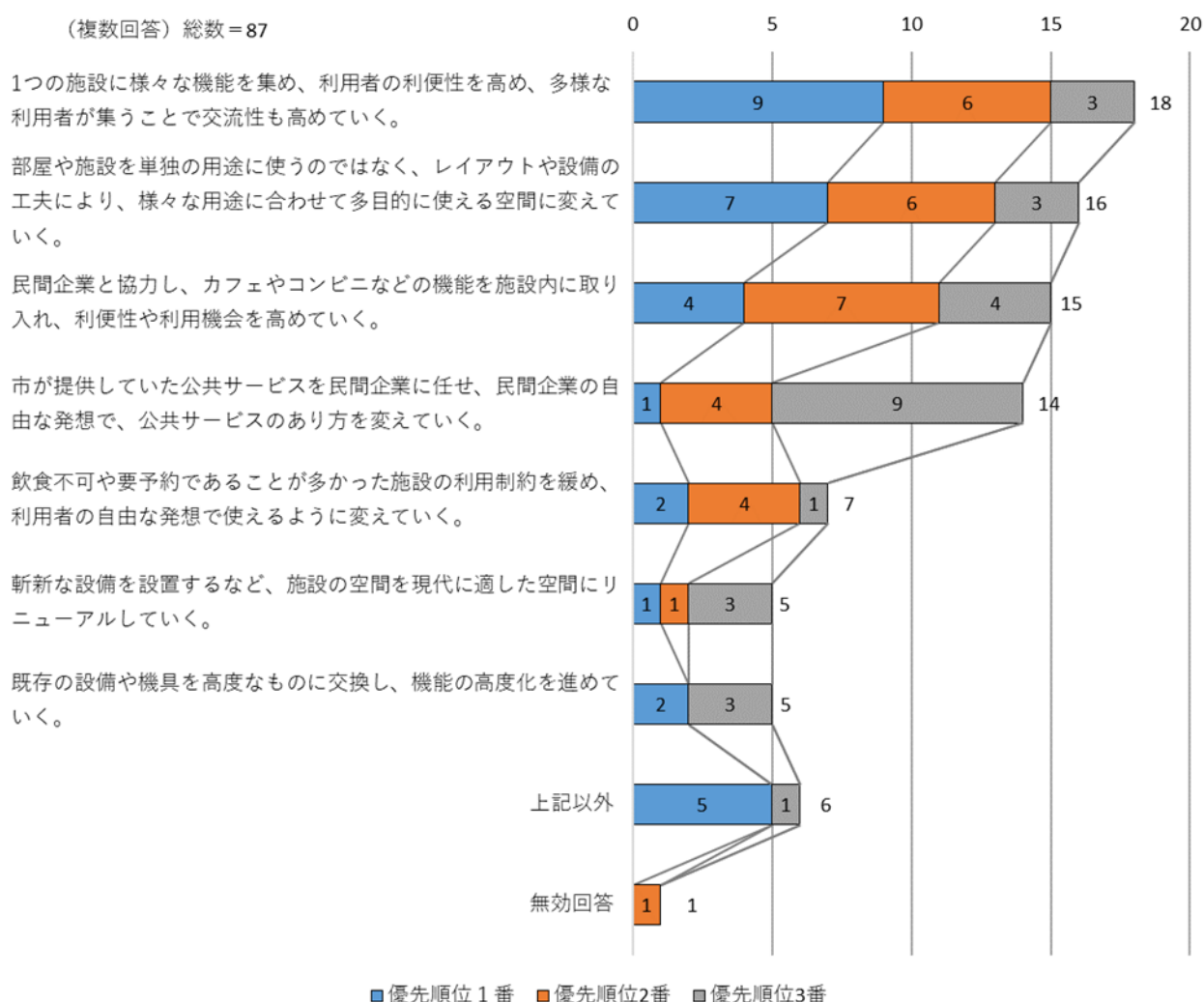
問1：今後の公共施設はどんな施設であることが求められると考えますか。

- 「いつでも自由に使えるオープンな場所があり、各々が職場・学校や家庭以外の居場所として活用できる施設」が17票と最多になりました。
- 「様々な世代が交流し、地域性や文化などの継承や発展が起こる施設」は13票、「地域の人たちが集まり、ボランティア活動など、助け合いの精神を育む施設」は11票、「今後、増加していく高齢者にとって、生きがいとなるような活動ができる施設」は11票、「子育て世帯に必要なサービスを提供し、様々な情報交換の場となる施設」は10票となり、これらの観点も重要であると考える方が多い結果となりました。
- これらのことから、今後は、いつでも自由に使えるオープンな施設、多世代・地域の交流の場となる施設、高齢者の生きがいづくりの場となる施設、子育て世代の支援につながる施設が必要だと考える方が多い傾向となりました。



問2：今後、公共施設を変えていく手法として、有効だと考える手法は何ですか。

- 「1つの施設に様々な機能を集め、利用者の利便性を高め、多様な利用者が集うことで交流性も高めていく。」が18票と最多になりました。
- 「部屋や施設を単独の用途に使うのではなく、レイアウトや設備の工夫により、様々な用途に合わせて多目的に使える空間に変えていく。」は16票、「民間企業と協力し、カフェやコンビニなどの機能を施設内に取り入れ、利便性や利用機会を高めていく。」は15票、「市が提供していた公共サービスを民間企業に任せ、民間企業の自由な発想で、公共サービスのあり方を変えていく。」は14票となり、これらの手法も公共施設を変えていくために有効であると考える方が多い結果となりました。
- 今後、公共施設があるべき姿に近づいていくためには、機能を1つの施設に集約することで交流性を高めること、場の使い方の柔軟性を高めること、民間企業の発想やサービスを取り入れていくことが手法として有効だと考える方が多く、施設空間の使い方や提供するサービスを変えていくことが求められています。



3. 公共施設に求める機能

○アンケート結果より公共施設に求める機能を整理すると、以下のとおりです。

